



「100年人生を通じてのお金との付き合い方」

講演：岡本 和久

(以下は2019年4月20日に開催された金融庁主催「つみたてNISA フェスティバル 2019」における基調講話の要約です)

<はじめに>

こんにちは。ただ今ご紹介いただきました岡本和久です。投資教育家で、かつファイナンシャル・ヒーラー®を名乗っています。人生を通じての長期投資は、始めるのはそんなに難しいことではありません。しかし、人生を通じて、非常に長い期間投資を続けていくので、その間は山あり谷ありです。心が騒ぐこともしばしばあります。重要なことは続けていくことで、それが最も大きなチャレンジなんですね。そういう意味で、長期投資の途中で起こる心の震えを少しでも癒してあげるような存在になりたいということで、ファイナンシャル・ヒーラー®、癒し人を名乗っているのです。



のっけから少し暗い話なのですが、最近、世の中で幼児の虐待だとか DV だとか、親族間の問題、あるいは組織の不正行為、さらに大国の自国優先主義というようなことも目立っています。どうも暗いニュースが多いのですが、そういう問題の全てに共通している原因は、私はやはりみんなの意識が非常に狭くなっているところにあるのではないかと考えています。

みんな、今の自分という狭い、小さなところに意識が凝り固まってしまっている。人のことを考えない、先のこと考えない。世界のことも考えないで、何世代も後の未来のことも考えない。みんな今の自分にとって良いことが一番大切だという意識で心が占められてしまっている。私は、意識の空間軸、時間軸をみんながもっともっと大きく広げていくことによって、自分自身も良くなるし世界も良くなるだろうと思っています。そういう意味で、小さな箱の中から少しずつでも飛び出して行ってほしいと思っています。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

投資のことやお金のことを深く考えていくことは意識を広げていく上で非常に有益です。また意識が広がっていくことで迷うことなく長期投資を続けていくことができます。今日はそのようなお話をしたいと思っています。

最初に、人生の目的について考えてみましょう。我々、別にお金持ちになるだけのために毎日、生きているわけではありません。もちろん、お金も大事ですがそれが全てではありません。では何でしょう。出世でしょうか。確かに高い立場に立ってみんなのために良い仕事をしていらっしゃる方も多いと思いますが、出世が人生の目的というのも少々寂しいでしょう。では、何のために生きているのか。毎朝起きて、夜になると寝るという繰り返しの中で、どこに向かおうとしているのか。

我々みんな「しあわせ持ち」になるために生きているのです。我々みんな幸せになりたいんです。死ぬ時に自分は幸せだったなと思って死にたい。それが我々みんなの目標だと思うのです。

幸せになるためにはいろいろな要素がありますが、私はこの六つを考えています。それらは金融資産、健康、家族、友達や交友関係、趣味や楽しみ、そして社会貢献です。

お金もその一つです。でもお金だけがあっても、その他がみんなボロボロだったら、しあわせ持ちとは言えないのです。全体のバランスが取れていることが大事なのです。しかも、その六角形が外側に大きく広がっている方が我々は幸福度が高いのです。

しあわせの六角形～六つの富（ふ）



Kaz Okamoto, CFA www.i-owa.com okamotok@i-owa.com

©2018 Kaz Okamoto, I/O Wealth Advisors, Inc. All rights reserved.

最近、「100年の人生」ということが盛んに言われるようになってきました。私が「100歳までの長期投資」という本を書いたのが2007年です。今から10年以上前です。その当時「100歳までの」などと言うと、とんでもないことを書いているようなイメージがありました。何か「本を売りたいために刺激的なタイトルを付けているのだろう」と思われたかもしれません。でも、「ようやく世間が私の考えに追いついてきたな」と実は一人でほくそ笑んでいます。

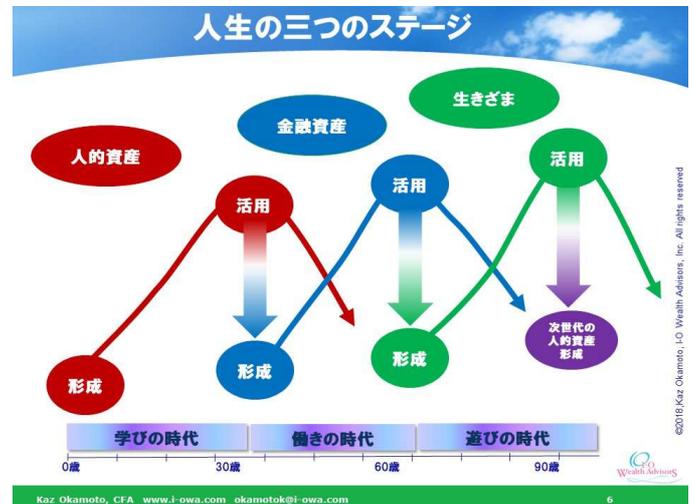
100年の人生を考えると大きく三つのステージに分けることができると思います。「学びの時代」、「働きの時代」、そして「遊びの時代」です。「学びの時代」というのは人的資産を形成する時代です。我々が世の中に貢献するための人的資産を形成する時期です。次の「働きの時代」は人的資産を



長期投資仲間通信「インベストライフ」

活用して世の中に貢献し、それを金融資産に変換していく時期です。そして「遊びの時代」はその金融資産を活用する時代です。何を形成するかと言うと「生き様」を形成します。「あの爺さん、かっこいいな」とか「ああいうお婆ちゃんに私もなりたい」というようなロールモデルを見せてあげる。これが生き様の形成ということです。そのように生き様を見せてあげることによって、次の世代の人的資産の形成に資することになります。

そういう意味では人生というのは非常に面白いですね。「学びの時代」、「働きの時代」、「遊びの時代」というステージの中で、形成、活用を繰り返しながら世代を超えて繋がっていく。今日はこの三つのステージにおけるお金との付き合い方についてお話をしたいと思います。



<学びの時代のお金との付き合い方>

まず、学びの時代のお金との付き合い方です。私は過去 15 年ぐらい中学校や高校で出張授業という活動を続けています。授業の始まる前に子供たちにいつもアンケートを取ります。

ほぼコンスタントに 6~7 割の子供が、お金は汚いもの、お金持ちは悪い人、というイメージを強く持っています。これは非常に大きな問題だと私は思っています。お金、あるいは、お金を稼ぐことにもっとポジティブな考え方がないと経済も成長しないし、世の中も良くなっていかない。一方、お金を稼ぐことが良いことだと思っている子供と、お金を稼ぐのであれば人に喜ばれることをして稼ぐのがいいと思っている子供の比率もほぼ 100%です。これはとても健全です。ただ残念ながら家庭でお金のお話をするのはだいたい半分くらいであまり多いとは言えない。

こんな問題意識から私はずっと子供向けのマネー教育をしているわけです。私の教室は「ハッピーマネー®教室」と呼んでいます。一番多い対象は、小学生から中学生、高校生です。

私の授業で一番に子供たちに伝えたいのは、人生の目的は「しあわせ持ち」になることだということです。先程お話をした六つの富、しあわせの六角形を話して聞かせます。子供たちはあまり自分の人生ということについて考えてはいません。これは無理もないでしょう。ただ、自分の長い人生の中で、今は「学びの時代」だということだけはしっかり教えたいと思っています。そして、次の「働きの時代」の準備期間なのだとことを知ってほしいのです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

次に、「働きの時代」には「学びの時代」に形成した人的資産を活用するのだということを理解してもらいたいので、次のような話もしています。働くということは先ほどの幸せの六角形で言えば、お金のためでもあります。同時に社会貢献であり、それが自分にとっての楽しみでもあるわけです。人のお役に立つということは非常に大きな喜び、楽しみです。働くということはつらい苦しいことではなく、世の中を良くしていくことに参加して、みんなから感謝をされ収入を得る、楽しいことであるということを理解してもらいたいのです。

「じゃあお金っていったい何なんだろう」、「どうしてお金って大事なんだろう」、そんな質問を投げかけます。大体の子供が「お金がないと生活ができない」、「必要なものが買えない」などと答えます。「なぜ、そんなことを聞くのだろう」とちょっと怪訝そうな顔をする子も多いのです。そこで、「じゃあ、ものすごくたくさんお金を持っていて、無人島で一人で住んでいたらどうなの?」と聞くとみんな困ってしまいます。無人島ではいくらお金を持っていてもその価値がない。お金というものは自分が必要なものや欲しいものと交換できるから価値があるのです。必要なものや欲しいものが手に入ればありがたいと思う、嬉しいと思う、だから自分が一生懸命稼いだお金を相手に渡す。

ここで、一番大切なメッセージを与えます。それは「お金は感謝のしるし」ということです。このお金は感謝のしるしだということを原点にしていろいろな事をもう一度考え直してみる。そうすると随分違ったものが見えてくるのです。さっきお話しした子供たちの「お金は汚いもの」、「お金持ちは悪い人」というイメージも変わってきます。

ATM からなぜお金が出てくるのか分からないと言う子供が非常にたくさんいます。ATM はお金が自動的に出てくるものだと思っているようです。ATM からお金が出てくる背後では、保護者の人が会社で働いていい仕事をしている。会社に感謝をされ、お金が銀行に振り込まれている。だからATM からお金が出ることに気付いてもらいます。

例えば自分の保護者がチョコレート工場に働いているとしましょう。その人がいい仕事をしてきているから会社は感謝のしるしの月給を銀行に振り込んでくれる。だからATM からお金が出てくる。この会社はチョコレートをお店に卸します。お店の人はこれでいい商売ができてありがたいと思うからその代金を払う。そしてお店に来た消費者はおいしいチョコレートが食べられてありがたいと思うからチョコレートの代金を払う。こうしてお金と感謝は手に手をとって世の中をめぐっているのです。

そのたった一枚のチョコレートも、コートジボワールとかガーナの暑いところで毎日、毎日、カカオの実をとっている子供たちだっているわけです。その子供たちがとってきた実を割ると中に豆が入っている。その豆を乾燥して袋に詰め、トラックに乗せ、港で船に積み替え、日本に持ってくる。それが工場に運ばれ加工されてチョコレートになる。そして店頭で並ぶ。その長い過程を経てお店で売られる板チョコが1枚100円少しなわけです。1枚100円ちょっとの板チョコの中に世界中の人



長期投資仲間通信「インベストライフ」

たちの労働が全て詰まっているんです。これを考えると世界中の我々みんな繋がっているということを実感します。

子供たちから一番よく聞かれる質問が「楽しんで儲ける方法はありませんか」ということです。楽しんで儲けることはできません。儲けるためには働かなければいけない。働くということは「はた」の人を「らく」にしてあげることです。自分が楽をしようとしたら、自分がお金を払う側になってしまいます。人を楽にしてあげてこそ人から感謝され、そして収入を得ることができるのです。「楽しんで」儲けることはできません。でも「楽しく」儲けることは出来ます。人に感謝をされることほど自分にとって楽しいこと、嬉しいことはないのです。「楽しんで」と「楽しく」。たった一字の違いですが大きな違いがあります。

仕事というのはまさに世の中に「仕」える「事」であって、人々から感謝をされて受け取るものです。そして感謝のしるしのお金が貯まるとそれが信用というものになります。信用が増えるとビジネスがうまくいきます。感謝をされることによってその人の信用が高まるのです。

人から感謝をされて稼いだお金をどのように使うか、その使い方を教えるのが「ハッピー・マネー®四分法」です。私どもでアメリカの会社から輸入販売をしているものです。これはピギーちゃんという名前です。ぶたさんですからピギーちゃん。今日は何かグリーンのを身に着けるか、持って来るようにという「サムシンググリーン」というご要望があったので緑色のピギーちゃんを持って来ました。そのほかにブルー、ピンク、ゴールド(ブライツ・イエロー)があります。



普通の豚の貯金箱は背中に穴が一つあります。ピギーちゃんには背中に四つ穴が開いています。胴体も四つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋がそれぞれの足に繋がっています。一番左の穴にお金を入れると頭のところにお金が入って、この足から出る。そのような構造になっています。もらったお小遣いを自分なりに考えて四つの使い方に分けます。親は何も言いません。自分で決めさせるのです。その四つの使い方というのが、「貯める(セーブ)」、「使う(スPEND)」、「ゆずる(ドネイト)」、「増やす(インベスト)」です。言い換えれば貯蓄、消費、寄付、投資です。

「使う」というのは簡単にわかります。要するに今欲しいものを買うということです。「貯める」は、本当は使いたいお金を我慢して使わずに増やすことによって、大きな買い物をして、大きな喜びを得ることです。我慢のご褒美として喜びが大きくなる。これは難しくいえば時間価値ということになります。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

時間価値がよくわかるのが複利の法則です。ご存知の方も多いかと思いますが「72の法則」というのがあります。「利率×年数=72」になるような組み合わせで資産が倍になる。3%だったら24年で倍になる。今の預金金利だと縄文後期ぐらいに預金をしていたのがようやく倍になっていることになります。要するに少なくとも今の金利では増えないということです。

ピギーちゃんの一番お尻のところにあるのが「増やす(投資)」です。投資というものの本質を少しお話しておきたいと思います。今すぐ必要としないお金を、今すぐお金を必要とする人や会社に使わせてあげる。これを投資と言います。お金を使わせてもらった人は、そのお金でビジネスの種をまき、陽に当てたり、水をやったり、肥料をやったりして、ビジネスの木に育てていきます。世の中のみんなに感謝をされるような仕事をすることで、感謝のしるしのお金はその会社にたくさん集まってきます。その一部分がずっと将来の自分のところに戻ってくる。これが投資というものの本質です。現在の大きな会社も最初はこのようなところから始まっているのです。

お金を使わせてもらっている会社は「お金を出資していただきました」ということを証明する物を発行します。それが株式というもののなのです。つまり、株式というのは企業の資産の一部分のオーナーであることの証明書のようなものです。もっとも今は実際の紙の証明書があるわけではなく、コンピューターの中に記録として存在しているだけです。

もちろん、お金を出した人がどうしてもお金が必要になることがあります。その場合には株式を売る必要があるのです。一方でその会社の株式を買いたいと思っている人もいます。そのような時に買い手と売り手が容易に取引できるようにするために存在するのが株式市場です。株式市場でたくさん売りたい人と買いたい人が取引をしてそこに株式の値段がつくのです。ところが、多くの方がこの株式市場での値段ばかりを見ている。それが投資だと思っている。実はその後ろ側に経済活動があるということを実感を持って知っていただきたいと私は思っています。

最後になりましたが「ゆずる」、これは寄付ですね。これは困っている人や世の中のためになることのために自分のお金を使ってもらうことです。お金でなくて労働や時間でも構いません。つまり他の人に喜んでもらうことをする。それによって自分もうれしい。他人の笑顔は自分の笑顔なのです。

例えば1万円の余裕資金があるとします。その1万円で霜降りのステーキを食べるか、発展途上国のフォスター・ペアレントになるか。どちらでも良いのですが、3回ステーキを食べるのなら、そのうちの一回分でフォスター・ペアレントになった方が、より自分にとってトータルの幸福感は大きいかも知れません。その方がより大きなしあわせ持ちになれるかもしれないのです。

これでお分かりいただけるように「使う」というのは今の自分のため、「貯める」は少し先の自分のため、「ゆずる」は自分のためではなくて困っている人、世の中のため、「増やす」というのは、すぐ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

に必要なお金、今お金を必要とする会社に使ってもらって、その会社を通して社会に貢献してもらい、みんなから感謝をされ、感謝のしるしが集まる。その一部がずっと将来の自分の元に戻ってくるというものです。「ハッピー・マネー®四分法」によって意識の時間軸と空間軸が広がっていくのです。子供たちが小さいころからピギーちゃんを身近に置いてお金の配分のことを考えていくことで意識がだんだん広がっていく効果があります。大切なことは自分で考えさせることです。

お金でわかることは、我々みんな繋がっているということ。我々はみんなご縁のネットワークの中に存在しているということです。そして投資とは時間をどう使うかということです。時間をどう使うかということは、言い換えれば、どう生きるかということにつながります。つまり、お金や投資のことを小さいうちからこのピギーちゃんのような教材を使って慣れ親しんでいくことで、自然に意識の時間軸と空間軸が広がっていく効果があると思います。

<「働きの時代」のお金との付き合い方>

以上が「学びの時代」のお金との付き合い方です。次に「働きの時代」に入ります。ジョン・レノンのイマジンという歌に「想像してごらん 国なんて無いんだと・・・」という歌詞があります。国がなければ、公的年金も国民健保も無く、そして税金も無いでしょう。そうなったら、みんな自立して生きることになりますね。現状はこれほどのことではないのですが、もし、国も企業も全然支援をしてくれないとしたら皆さん自分自身で自分のことを考えざるを得なくなるでしょう。

「長寿化はグッド・ニュースです。でも、より長く働き、より多くの資金を準備しなければならないことを認識すべきです。」(ノーベル経済学賞受賞者、ロバート・マートン)

これはロバート・マートンというノーベル経済学賞を取った方のコメントです。ここで大切なことは「将来の自分を支えるのは今の自分だ」ということです。

「毎年の収入は今年の生活費と将来の生活費の両方であることを知るべきです。」(行動経済学者、ダン・アリエリー)

こちらはダン・アリエリーという新進気鋭の行動経済学者が述べていることです。これは非常に重要なポイントです。今年の収入は、今年の生活費と将来の生活費の両方である事、これは本当にその通りだと思います。今の給料全額を今、全部、使って生活していたらリタイアした後で必ず困ります。年金はもちろんもらえるでしょう。でも、年金だけで生活することはできないのです。やはり自助の部分がかなり必要だということを言っているのです。再度、言います。最も大切なことは「将来の自分は今の自分が支える」ということです。

退職後の一番大きなリスク、それは生活の質が極端に下がってしまうことです。これをどのように避けるかというのが重要なポイントなのです。左側の棒グラフを見ていただきますと、毎年の収入が出ています。緑の部分を今の生活費にあててブルーの部分を退職後のために取っておくとしま



長期投資仲間通信「インベストライフ」

しょう。ただ、今、貯めた資金を使うのは30~40年後かも知れない、ずっと先です。その間に物価も上がります。そうすると物価の上昇分だけ貯めたお金の価値が減ってしまいます。購買力が減るのです。では、物価上昇率並に投資でリターンを上げていったらどうでしょうか。そうすると確かに購買力は維持できますが、就業中の生活費と比べると大幅に下がってしまいます。図では緑の部分で生活していたのが、赤と紫の合計に減少するのですから、相当、耐乏生活をしなければならない。そこでプラス・アルファのリターン(黄色の部分)を得る必要がある。それに年金や若干の収入があれば退職後の生活もそれほど生活の質を下げないで維持することができることとなります。ここからわかるように資産運用の目的は「購買力の維持プラス・アルファ」ということです。

プラス・アルファを稼ぐためには株式を保有することが必要になります。株式のリターンの中には、数量の成長と価格の上昇その両方が含まれているからです。つまり購買力を維持しつつプラス・アルファを稼ぐことができるのが株式なのです。

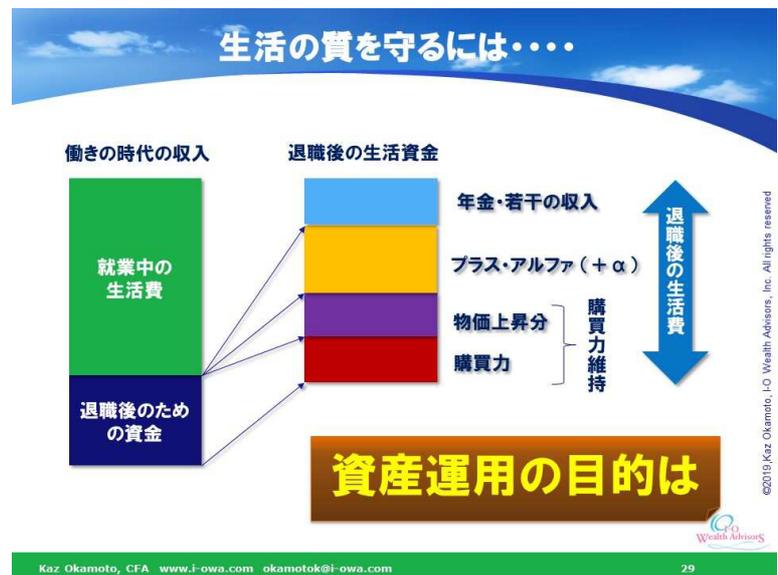
全世界の名目経済成長は全世界の企業が実現しているものです。つまり長期的に見れば世界の名目経済成長率は世界の民間企業の付加価値の増加とほぼ等しいのです。全世界の株式に投資をするようなファンドを保有していれば実質成長プラス物価の上昇、つまりデフレーター部分の合計をリターンとしていることができるわけです。

ではそのためにどうしたらいいのか。答えは簡単です。

全世界の株式インデックス・ファンドをできるだけ若いうちから毎月定期的に一定額を積み立てる。そしてリタイアするまで絶対に止めない。

私は18歳になったら少しずつでも積立投資をすべきだと考えています。そして、それをリタイアするまで何十年も絶対に止めないこと。実はこれが一番難しいのですが、長期に続けなければその効果も出ません。

いろいろな疑問や質問もあると思いますが、この後の講演でもいろいろ解説があると思いますので、ここでは、「なぜグローバル投資なのか」ということと「なぜインデックスか」という2点についてお話をしておきたいと思います。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

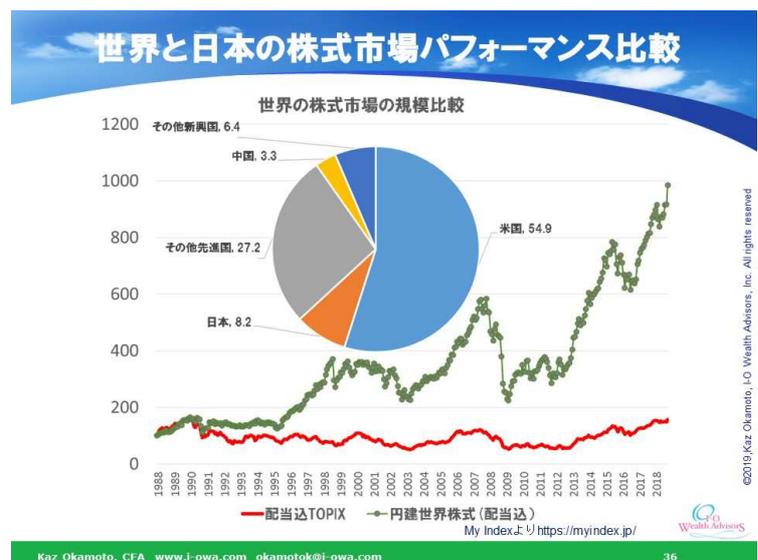
我々の生活は世界中の企業によって支えられています。世界中の企業のトータルで見た株式のリターンの中には、世界経済の数量の成長と物価の上昇の両方が含まれています。我々の生活を支えてくれている世界中の主な企業全てを保有してしまえばいいのです。つまり全世界の株式ポートフォリオを保有していれば購買力の維持プラス・アルファという二つの目的が達成されるのです。しかも投資信託を使えば一回の飲み代ぐらいで十分、世界中の主要企業を保有する投資信託を買うことができます。

投資信託を使う大きなメリットは、分散投資が簡単にできるということです。分散も、国や地域、産業と企業、大きい企業も小さい企業も、高度成長企業も安定成長企業も全てをまとめて保有するのです。まさにキーワードは「分散・分散・分散」なのです。

結論から言うとグローバルの株式インデックス・ファンドをただひたすら毎月、一定金額を投資し、保有し続けられればよい。自動引き落としで自動的に買い付けてくれるようにしておけば後は忘れていてもいいのです。

これは1988年からの日本の株価（赤線）と円換算をした全世界の株価（緑線）、もちろんこちらには日本株も含まれていますが、それらを比較して示したものです。平成が始まってから日本のマーケットというのはまだ3割ぐらい下にいますよね。世界の株式市場は円建てで見ても大体13倍ぐらいになっています。

これだけ大きな差が開いてしまっている日本は、全世界の株式市場の中では10%弱のシェアでしかありません。ですから全体としては影響度は小さいのですが、我々としては、やはり日本の企業にもう少し頑張ってもらい、魅力ある投資対象となってほしいと思っています。



次に、なぜインデックスかということをお話します。インデックス運用の有効性については、いろいろな理論的な進化がありました。効率的市場仮説、敗者のゲーム論、アクティブ投資の算術論などがありましたが、その中で「アクティブ投資の算術論」について少しだけお話をしておきます。これはウィリアム・シャープ先生の理論です。アクティブで運用しているすべての資産をまとめれば市場全体になります。ですからアクティブ総体としてのパフォーマンスは市場全体と等しくなるはずですが、ただアクティブ運用は頻りに売買をします。その分のコストは必ず市場のリターンから



長期投資仲間通信「インベストライフ」

差し引かれることとなります。マーケット全体のリターンよりアクティブ全体のリターンは定義上、マーケットの構造上、下回るのです。

つまり、マイナスサムの世界の中でお互いに競争しているのがアクティブ運用なのです。この議論の特徴は市場の効率性という観点から離れて、インデックス運用の優位性を明確にした点で非常に意味のあるものです。

ここでは一本で全世界の株式に投資できる四つのファンドを紹介しています。そのうち、上の三つは金融庁がつみたてNISA 対象ファンドとして紹介したものです。最後の一つは最近出たファンドで注目されているものです。

例えばBのファンドはバンガード・トータル・ワールド・ストック ETF を保有しています。このファンドに投資をすると投資すると全世界 40 数カ国 8000 銘柄にファンドを通して間接的ではありますが投資ができることとなります。

全世界の株式に投資できる投資信託					
ファンド名	最大申込手数料	年間運用費用概算(税込み)	運用会社名	販売会社	
A SBI・全世界株式インデックス・ファンド	0.00	0.15	SBI AM	カブドットコム証券・楽天証券・SBI証券・松井証券	
B 楽天・全世界株式インデックス・ファンド	0.00	0.2296	楽天投資	エイチ・エス証券・カブドットコム証券・ソニー銀行・フィデリティ証券・マネックス証券・楽天証券・立花証券・SBI証券・橋本銀行・松井証券・ジャパンネット銀行・岡三オンライン証券・GMOクリック証券	
C 全世界株式インデックス・ファンド	2(つみたてNISAは0)	0.5184	ステート・ストリート	三井住友信託銀行・カブドットコム証券・マネックス証券・楽天証券・SBI証券・東京スター銀行・中国銀行・東北銀行・松井証券	
D eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	0.00	0.1534%	三菱UFJ国際投資	カブドットコム証券・マネックス証券・楽天証券・SBI証券・松井証券・岡三オンライン証券	

データ：まとなび（2019年3月）

A~C:金融庁による「つみたてNISA用」対象商品の要件（指定全世界株式インデックス投資信託）

©2019/4/12 www.i-owa.com 38 LO Wealth Advisors, Inc.

大きな投資先はアップル、そして、マイクロソフト、アマゾン、アルファベット(グーグル)、フェイスブック、ジョンソン&ジョンソン、バークシャー・ハザウェイ、アリババグループ、エクソンモービルなどですが、さらにファイザー、ネスレ、マクドナルド、コカ・コーラ、ソフトバンク、トヨタ自動車なども上位に入ってきます。もし将来、インフレにより利得がこれらの企業に発生したとしても、株主となっていればある程度の利益の回収はできるわけです。

アクティブ運用のうちそのパフォーマンスが市場指数を下回っているファンドの比率を見ると、グローバル株式ファンドでは1年、3年、5年、10年、どの期間で見ても7割から9割ぐらいのアクティブファンドが、市場全体のパフォーマンスに負けているのです。

その一つの理由として、投資信託に関連するコストの問題があります。管理手数料、信託報酬が大きな比重となっているのです。例えば毎年5%のリターンがあるファンドを40年保有したとしましょう。コストがゼロなら当初100の資産は704になっていることとなります。申込手数料2%、管理手数料1.5%とするなら40年後の残高は377にしかありません。さらに、アクティブですから売買を行う時の委託売買手数料も掛かるので、もっと下回ることが考えられます。一方、申込手数料



長期投資仲間通信「インベストライフ」

がなく、管理手数料が 0.5% のインデックス・ファンドであれば残高は 576 です。これだけ大きな違いが生まれるのです。

なぜ意識の拡大で資産運用がうまくいくのかと言え、要するに空間軸を広げることは分散投資ということですし、時間軸を広げることは長期積立投資だからです。意識の拡大で無理なく分散投資と長期積立投資ができるというわけです。意識が拡大していればマーケットの変動に惑わされない。相場観もいりません。銘柄選択能力も不要です。経済予測も、投資理論の難しい話もなしです。だからこそ相場に惑わされないのです。手間も暇もかからないから長く続けられるのです。そして、続けてこそ、初めて効果が出るのです。

人生を通じての資産運用というのは要するに歯磨きのようなものです。別にエキサイティングでも、楽しいわけでもない、難しいわけでもない。でも、毎日続けていないと将来年を取った時に困ることになります。

<「遊びの時代」のお金との付き合い方>

少し駆け足になりますが、最後の「遊びの時代」のお金との付き合い方を紹介しておきます。まず、どのように資金を取り崩していくかという問題です。私は、とにかく就業中は全世界の株式インデックス・ファンドをずっと積立投資をしていけばいいと考えています。そして、退職した時にもらった退職金は全額債券ファンドにする。それによって株式ファンドのリスクを中和することができます。

退職後、毎年、どのように資産を取り崩すのが良いのか。私の答えは簡単です。毎年、前期末の資産の時価残高を自分の想定する余命年数で割ればいいのです。100 歳まで生きるという前提であれば、そして今 70 才であれば前期末の資産の時価残高を 30 で割る。その金額分、株式ファンドを売却して現金化してそれを引き出す。ただこれをずっと続けて命を終えるまで続ければいいのです。

当然、自然に年代とともに株式の比率が少なくなり、リスクが減少していくことになります。株式ファンドを売却し切ったら、債券ファンドを売却する。これをやっていけば予定した寿命の終わりまで絶対に資金が枯渇することはありません。後は毎年、毎年の引き出し資金に年金などを加えて、その金額で自分の幸福感が最大化されるような使い方をしていけばいいのです。

冒頭にお話したようにお金という要素は大切ですが、しあわせの六角形の中の一つの要素です。でも我々は、どうもお金がないと絶対に幸せにはなれないと勝手に思い込んでいる節があります。お金の呪縛から離れるということも、とても大切なのだと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

最後になります。私は高齢になればなるほど、人生を超えた投資というのも楽しいだろうと考えています。超長期投資です。80歳、90歳になった時こそ100年先のための投資を考えるべきではないかと思えます。

世の中のためになる、まっとうな利益を上げている、質の高い利益を上げ続けている企業であること、そしてそのような利益を長く続けることができるサステナブルな会社であること、そのような企業を自分の志を込めて次の世代、次の、次の世代のために、自分がいなくなった後も自分の投資先企業を通じて自分の志が生かされていくようにする。

これがある意味、私は本当の意味でのアクティブ投資ではないかと思っています。未来を託せる企業に投資をする。配当金を受け取ったら社長にお礼の手紙を書く。投資金額は少なくとも超長期で保有して大きく育ってくればそれでいいのです。そのような投資も老後の一つの楽しみではないかと思えます。投資は投「志」なのです。

大変駆け足でお話をいたしました。これで私の基調講話を終わらせていただきたいと思います。みなさまの資産運用の参考に供したなら幸いです。ご清聴ありがとうございました。